

課題 21 見なれた光景を問い直そう：音楽室を通して考える

学校の音楽室を思い浮かべましょう。グランドピアノ、五線の黒板、音楽家の肖像画……。日本の学校教育を受けた人が当たり前のように思い浮かべる光景かもしれません。はたしてこうした音楽室の光景は、誰にとっても当たり前なのでしょうか。次の手順であらためて問い直してみましょう。

- (1) 音楽室の光景を記述する：身近な音楽室を調査しましょう（小中高校どこでも可）。どのような物が置かれ、どのように使われていますか。壁の掲示物はどのような役割を果たしていますか。書き方は自由でよいので、そこにある設備や物について、特徴や役割、誰がどのように使っているのか、あなた自身がそれにどのようにかわり、どのような思いを抱いているのかなどなど、いろいろな側面から書き記してみましょう。
- (2) 比較するための情報を集める：次の①～③いずれかの方法で別の音楽室について記述し(複数可)、(1)の音楽室と比較してみましょう。
 - ①年上の人にインタビューして「昔の音楽室」の様子を聞く。
 - ②書籍や雑誌、インターネットを通じて国内外の音楽室の写真や資料を探す。
 - ③あなた自身が国内外の音楽室を複数知っているならば、それらを思い出してみる。
- (3) 考えながら調べる、調べながら考える：音楽室の情報がそろったら、「共通する物・相違する物」「同じ物でも使い方が違う」、「同じ物を同じように使っていても人によって見方や思いが違う」といった観点をひとつ（複数可）定めて比較し、結果をまとめましょう。この過程で疑問が生じたら（たとえば「五線譜はいつから使われているか」「楽譜を使わない音楽はあるか」「ピアノの誕生はいつ」「学校の音楽授業はいつからあるのか」）、本を読むなどして調べましょう。
- (4) まとめる：(1)～(3)をまとめます。最後に、ここまでの過程で知ったことや発見したこと、考えたことを土台にして、「未来の音楽室への提言」を付け加えてください。